

2022年度通常枠 草の根活動支援助成（全国） 社会的困難者が役割と希望を再生するコミュニティ活動 助成申請実行団体 概要表

| | |
|-------------|---|
| 申請受付番号 | 1 |
| 事業名 (副題) | 「地域のつながりと資源の循環」を新規就農者が生み出す事業 (新規就農者の営農支援と健康に暮らせる地域をつくる事業) |
| 団体名 | Green Storage |
| 所在地 | 富山県南砺市 |
| 事業概要 | この事業は南砺市の、①将来の食料安全保障と②森林以外の面積の約半分を占める農地の保全を担う新規就農者の営農を支援するものである。新規就農者の離農と生活困窮は南砺市も例外ではなく、農業従事者が少子高齢化で減り続ける中、新規就農者の営農支援は南砺市の課題と捉える。離農と生活困窮の最大の原因である「栽培と経営の能力開発」を目的として事業を展開。具体的には、栽培技術の中で、「土づくり」が最も重要と考え、技術指導と堆肥の提供（販売）、と経営において最も難易度が高く重要な販路開拓の指導と支援を行う。新規就農者が良質な堆肥を安定自給することは極めて困難であり、販路開拓においては学ぶ機会がないことから、この事業を構想した。我々は一時的な研修や堆肥の提供に終わらず、土壌診断と施肥設計、栽培指導、独自の販売ルートなどを利用した販売指導を行い、地域の信頼と関係構築に欠かせない「安定した営農」を実現し、地域に根ざした農業者となれるよう支援する。本事業により、農地を守り、外的環境の変化による食料危機に晒されない南砺市づくりに貢献していく。 |
| 申請受付番号 | 2 |
| 事業名 (副題) | 利害関係者との協働で行う井波地域交通未来ビジョン策定プロジェクト (システムズアプローチとシミュレータが支える交通計画) |
| 団体名 | 一般社団法人イドウラボ |
| 所在地 | 富山県南砺市 |
| 事業概要 | <p>本事業では、井波地域の公共交通を改善し、交通困難者が容易に外出可能になる交通計画を立案する。また、交通計画の立案のため、交通困難者自身に深く関与してもらう。</p> <p>まず、住民の移動と、それに伴う設備のニーズを調査する。そのために、ワークショップとアンケート調査を実施する。ワークショップは、一般住民向けと高校生とその保護者向けに、それぞれ開催する。（一般住民向けのワークショップには、車で移動できない、あるいは、車で移動をやめたい高齢者が積極的に参加できるように呼びかける。）それによって、交通困難者が抱えている交通の課題を、個別・具体的に洗い出す。それを具体的に解消する計画を立てることを、本事業の最終目標とする。</p> <p>次に、交通事業者（JR、バス事業者、タクシー事業者）と、自治体の交通担当者の課題・ニーズを調査する。そのために、交通事業者、行政の交通担当者、交通の専門家で構成された会議を実施する。</p> <p>課題を明確化するために、システムズ・アプローチの手法を用いる。この手法により、利害関係者の関係性を記述し、利害関係者の期待のうち、定量化できるものを項目として列挙し、その選択肢を挙げる。その上で、どの選択が最適であるかをモデルベースでシミュレートする。</p> <p>また、路線バスと、デマンドバスの需要予測シミュレータを開発し、交通の専門家のアドバイスを受けながら、交通事業者、行政担当者と予測された需要を見ながら具体的な議論を行う。</p> <p>最終的には、交通計画を井波未来交通ビジョンとしてまとめる。この計画の一部については、行政に働きかけ、実際にバス等を運行する道筋を作る。</p> |
| 申請受付番号 | 3 |
| 事業名 (副題) | 文化芸術の力で、すべての人が「自分らしく」主体的・創発的に生きる社会の実現へ (アートギャラリーでの「探求型」のアート教育プログラム、コミュニティの開発・展開を通じて、南砺市で生まれ育つ子供たち一人ひとりに自ら考え、学び、探求するきっかけを提供する) |
| 団体名 | 株式会社ビッグノーズ |
| 所在地 | 富山県南砺市 |
| 事業概要 | アートギャラリー【NOSE ART GARAGE】が、子供たちの「生きづらさ」に起因する、「自己肯定感」「自分を信じる力」の欠如を解決すべく、すべての子供たちが「自分らしく」主体的・創発的に生きていけるよう、「自ら考え、学び、探求するきっかけ」を提供するため、アートを用いた教育プログラム・コミュニティを開発、展開する。年間で15のSTEPのプログラムを用意し、子供たちには、アートギャラリーを使って、南砺市の地域課題を解決するビジネス・企画を起案してもらう。プログラムを通じて、「地域がもつリソース」と、「企業のもつリソース」を探し、その2つを用いて、地域をよりよくする企画を考える。子供たちが考えた企画を、アートギャラリーから社会へと実装し、実社会の中で、自分たちが起案した取り組みが機能していく過程、社会全体のしあわせの総量増加に自分たちが寄与できていることを実感してもらうことで、生きづらさを抱える子供たちに欠如していた「自己肯定感」「自分を信じる力」の創出を実現する。子供たちが楽しみながら本質的な学び「探求」と出会える居場所・コミュニティとして、子供たちが安心して集うことができる新しいギャラリースペースを新設。そのスペースの中で、ギャラリーが開発する15のSTEPのアート教育プログラムを元に、事業を進行していく。STEP1～3は、アートギャラリーという創造的思考開発に適した空間の中で、地域のリソース発見。STEP4～6は、地域企業との出会いから企業のリソースの発見。STEP7～10は、地域と出会い直し、さらに地域のリソースを探求。STEP11～13は、リソースを用いた地域課題へのイノベーション、解決策を起案。STEP14～15で、企画を子供たちそれぞれの表現方法にて発表を行い、その後ギャラリーにて、子供たちが起案したビジネス・企画を、実社会へと実装していく。 |